

市民との協働による多文化共生社会実現のための 取り組み ～やさしい日本語による「防災カード」の作成～

青森県青森市経済部交流推進課

「ぶらっとワールドあおもり」の設立

2011年7月、青森市（市民生活部市民協働推進課〈2014年4月、機構改革により国際交流担当が経済部交流推進課へ移管〉）は、本市の国際化の推進と多文化共生社会の構築を協働により行うことを目指し、青森市内で活動する国際交流や国際協力に関する市民活動団体8団体とともに「ぶらっとワールドあおもり」を設立しました。

「ぶらっと」はいつでも好きなときに立ち寄るという意味と、英語のプラットフォーム（platform：土台、基盤）をかけ、「ワールド」には、国際交流だけではなく、国際理解・国際協力へとつながるようという想いを込めました。そして青森市での活動が市内外からもわかるように「あおもり」を付け加え、「ぶらっとワールドあおもり」という名称にし、各団体が持つスキルとネットワークを活かしながら、それぞれの力を持ち寄って、本市の多文化共生社会の基礎づくりに取り組んできました。

（財）青森県国際交流協会の地域連携 多文化共生推進事業への応募、受託

このような中、（財）青森県国際交流協会（2013年4月1日から公益財団法人）は、2012年2月、在住外国人の日常生活、行政ニーズなどを把握し、実情に応じた多文化共生の地域づくりを推進するため、青森県在住の外国人のうち約2,000人を対象に「在住外国人アンケート調査（以下、アンケート調査）」を実施しました。

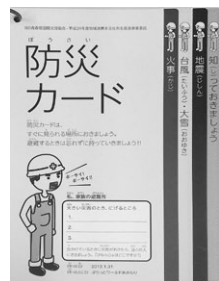
そして翌2012年度には、このアンケート調査の結果を基に、交流推進・情報提供・防災情報周知などの重点分野を設定し、市町村と民間団体が連携して

行う多文化共生の先導的事業を公募し、委託により実施することになりました。

2011年3月の東日本大震災以降、災害時の正確かつ迅速な情報提供や、災害時の対応に関する知識習得の需要が高まっており、アンケート調査においても「情報入手が困難」「避難所など災害時にどうしたらいいかわからない」という意見が多く、外国人が安全・安心な生活を送るためには、防災に関する知識・情報の周知が必要であるという課題が見えてきたことから、「ぶらっとワールドあおもり」として当該事業に応募、審査の結果、受託することとなりました。

「防災カード」ができるまで

現在、本市で生活している外国人は全住民の約0.3%と少ないものの、その国籍は約30か国と多岐にわたっており、情報提供を行う際に、そのすべての言語に対応することは難しいこと、また、アンケート調査から、約8割の方が簡単な日本語の読解が可能であることがわかったため、多言語で作成するよりも「やさしい日本語」を活用したほうが効果的であると考えました。



「防災カード」

「やさしい日本語」とは、ひらがな・カタカナ・小学校2～3年生レベルの漢字を使用し、修飾語や難しい語句を使わず、一文を短い文章で表現するものです。

また、本市をはじめ、さまざまな機関などで防災に関するマニュアルなどがすでに作成されていましたが、「情報量が多すぎる」「専門用語など難しい表

現が多く理解できない」などの意見が多かったことから、掲載内容は必要最小限の項目に絞り込み、日頃手にとってよく見る、見たいと思うようなものにするため、文字だけではなくピクトグラム（絵文字）やイラストを加え、視覚的にも理解しやすいものにすることを目指しました。

実際に「防災カード」を作成するにあたっては、(財)青森県国際交流協会の多文化共生アドバイザー派遣事業を活用し、「ユニバーサルデザイン」と「やさしい日本語」について、2回の勉強会を実施しました。これらの勉強会は、「ぶらっとワールドあおもり」のメンバーのほか、一般市民や関係機関の方も対象に実施し、ピクトグラムを使用する際には、世界標準のデザインや色使いなどにも配慮が必要であること、災害時の情報提供の仕方とその有効な手段である「やさしい日本語」について学びました。



第2回勉強会「やさしい日本語を活用した外国人にもわかりやすい情報伝達方法」(講師：弘前大学人文学部 佐藤和之教授)

そのほか、本市危機管理課および消防本部（予防課）の協力を得て、消火訓練やAED操作などの実技を交えながら、防災意識の啓発と災害時の対応などを学ぶ「防災講習会」を実施しました。



防災講習会での心肺蘇生法の実技演習

また、作成途中では、国際交流員や留学生を対象に、「防災カード」が外国人にとって使いやすいものかどうかの検証を行ったり、東日本大震災で被災し、現在は海外に在住する外国人とインターネット電話を活用して意見

交換を行うなど、実際にこの「防災カード」を使う外国人から貴重なアドバイスをもらい、掲載内容の修正に役立てました。



インターネット電話を活用した外国人との意見交換会

これらの勉強会などを踏まえ、「防災カード」は、火事・台風・大雪・地震などの防災情報や避難の仕方のほか、非常持ち出し品リスト・災害のときの日本語などを紹介する内容とし、持ち運びしやすいコンパクトなサイズ（縦約20cm×横約15cm）、防水加工を施すなど素材にも工夫をしています。

「防災カード」の活用

このように、市民との協働により完成した「防災カード」は、「ぶらっとワールドあおもり」のメンバーとなっている団体が実施する日本語学習の授業に教材として導入するなど、民間団体が主催する事業にも活用されています。

ルビが振ってある簡単な短い文章を使った「やさしい日本語」と親しみやすいイラストがある「防災カード」は、教える側にとっても、また日本語学習を始めて1年未満の外国人住民にとっても、非常にわかりやすく、日本語学習とあわせて災害時の対応についての情報提供と防災意識の啓発に役立っていると好評でした。

現在、「防災カード」は、青森市と青森県国際交流協会のホームページ(注)にも掲載しており、ご覧になった方から、在住外国人を含め小さい子どもたちや高齢者にもわかりやすいとのご意見をいただいております。

今後も、在住外国人を含むさまざまな人がともに生きる多文化共生社会の推進のため、行政と市民が協働により課題解決に取り組んでまいりたいと考えています。

(注) やさしい日本語による「防災カード」は、下記URLからダウンロードできます。

《青森市ホームページ》

[https://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?nd=](https://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?nd=540&ik=1&pnp=115&pnp=429&pnp=540&cd=14600)

[540&ik=1&pnp=115&pnp=429&pnp=540&cd=14600](https://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?nd=540&ik=1&pnp=115&pnp=429&pnp=540&cd=14600)